

## 第23回 旧RD最終処分場問題連絡協議会の開催結果

■日 時 平成30年2月13日(火) 19:00～21:15

■場 所 栗東市コミュニティセンター治田東

## ■主な質疑・ご意見

## 1. 前回の開催結果の確認について

◇廃石綿の袋が黄色に定型化されたのはいつか。

⇒廃棄物処理法において、廃石綿が特別管理型廃棄物と規定されたのは平成4年であり、黄色の廃石綿の袋が定型化されたのは昭和60年代くらいであると回答しました。

◇潰れたドラム缶内の内容物浸潤土について、分析方法を「民間業者に問い合わせたが、分析方法はなく」とあるが、分析方法がないことはあるのか。

⇒専門家である石油関係の協会に確認したが、何かわからないものを一から調べる方法は無いとの返答があり、これ以上調べることはできないと回答しました。

◇連絡協議会への知事の出席要望について、知事に話をしたのか。その結果は。

⇒連絡協議会の議事録を知事に提示し、出席を求められていることを報告させていただいたところ、タイミングを見て出席させていただきたいとの御意見でしたと回答しました。

## 2-1. 平成29年度第3回モニタリング調査結果

◇質問無し。

## 2-2. No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

◇資料2-2のP6をみると、ヘキサダイアグラム(イオン組成)の形状がNo.1-1井戸のものと同じく違わないように思えない。

⇒ヘキサダイアグラムの見方は形であり、大きさが相似形なら、同じ地下水のものと判断します。E-2、H16-No.5、No.3揚水井戸等、ヘキサダイアグラムがNo.1-1井戸と似た形状のものはありませんと回答しました。

◇地下水が処分場からNo.1-1井戸方向に流れていないとの保証はできないのではないかと。

⇒アドバイザーの先生方の見解は、データから処分場の影響は受けておらず、その方向には流れていない。ただし、何か別に発生源があるから調べなさいということであり、今後調べて結果を報告させていただきますと回答しました。

## 3. 工事等の進捗状況について

◇D工区の特異な廃棄物にある「青色固形物」は顔料か。

⇒顔料ではなく、樹脂系のものですと回答しました。

◇D工区の特異な廃棄物にある「コンデンサ」の中身は。

⇒コンデンサにわずかに残った油や紙の部分にしみこんだ油を分析し、あわせてコンデンサが発見された周辺の土壌を分析しましたがPCBは検出されませんでしたと回答しました。

◇「医療系廃棄物」の中に薬剤ははいついていないのか。

⇒容器等の中に薬剤が残っているものは殆どなく、仮にあっても長期間埋まっており、薬剤による感染の問題ありませんと回答しました。

#### 4. 工事の施工方法について

◇C工区遮水壁の高さは。

⇒7 m位ですと回答しました。

◇C～E工区の西側は民地か。処分場からの浸透水がそこまで漏れてきていないか。

⇒処分場西側の場外には市道があり、さらに民地があります。その民地には観測井戸（No. 3-1 井戸）がありモニタリング結果から、処分場の浸透水が地下水に影響していると推定されると回答しました。

◇仮進入路工に設置するアンカーはどのようなものか。

⇒矢板の前を掘削すると倒れますので、それを止めるためにワイヤー（鋼線）を山の中に刺して、先はセメントのようなもので固めて抜けないようにしますと回答しました。

#### 5. その他（傍聴人の発言について）

◇中浮気団地自治会から「栗東市民として連絡協議会で傍聴席から発言できる時間が設けられてもよいのではないか。」との意見があったと県より報告があったが、傍聴人からの発言の取扱いについて連絡協議会の場で決めていくのか。

◇今決める話でもないので、一旦、各自治会へ持って帰ってもらい、傍聴人の意見を聞く場が持てるのか自治会で考えてもらったかどうか。

⇒（県）各自治会に持ち帰っていただき、改めて次の協議会に持ち寄る形とさせていただきます。